

## Part1216 ◆不均衡を是正する「市場の調整機能」 - その2

もう、かなり以前ですが、Part1102で「ワルラス調整過程」を紹介しました。ワルラスによれば、市場の不均衡（需給の不一致）は、価格の上下によって解消されました。

これに対して、今回登場する「マーシャル調整過程」は、市場の不均衡は生産調整（供給量の増減）によって解消されるという理論です。

### 1) マーシャル安定

例えば、下図に示すように、ある財の市場均衡における需給量が2万個、均衡価格が200円とします。

ではまず、いま需給量が1万個しかないとしましょう。すると、

需要価格 $P_D$ （消費者の希望上限価格）が300円、  
供給価格 $P_S$ （供給者の希望下限価格）が100円となっています。

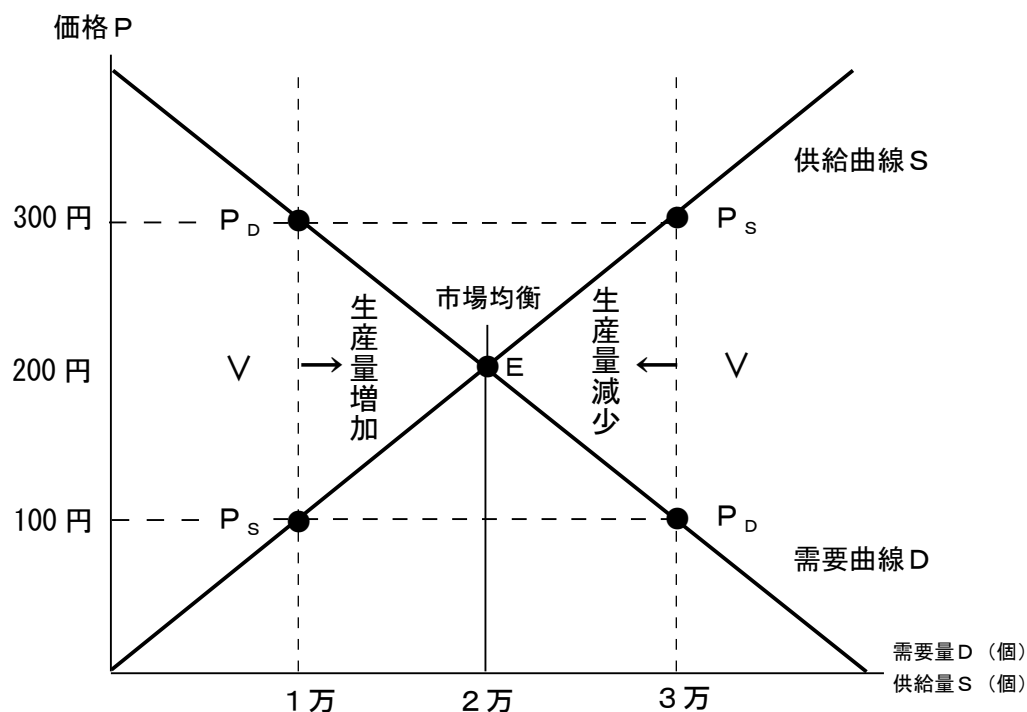
こうした $P_D > P_S$ の状態であれば、生産者は、商品に対する消費者の評価が高いと判断し、供給量を増加させます。その結果、不均衡は解消されます。

では次に、いま需給量が3万個あるとしましょう。すると、

需要価格 $P_D$ （消費者の希望上限価格）が100円、  
供給価格 $P_S$ （供給者の希望下限価格）が300円となっており、

こうした $P_D < P_S$ の状態であれば、生産者は、商品に対する消費者の評価が低いと判断し、供給量を減少させます。その結果、不均衡は解消されます。

このように、生産調整（供給量の増減）によって不均衡が是正され、均衡に戻ることを「マーシャル安定」といいます。



## 2) マーシャル不安定

ワルラス調整過程と同様に、マーシャル調整過程においても不均衡が是正されず、どんどん均衡から離れてしまうケースが想定されています。

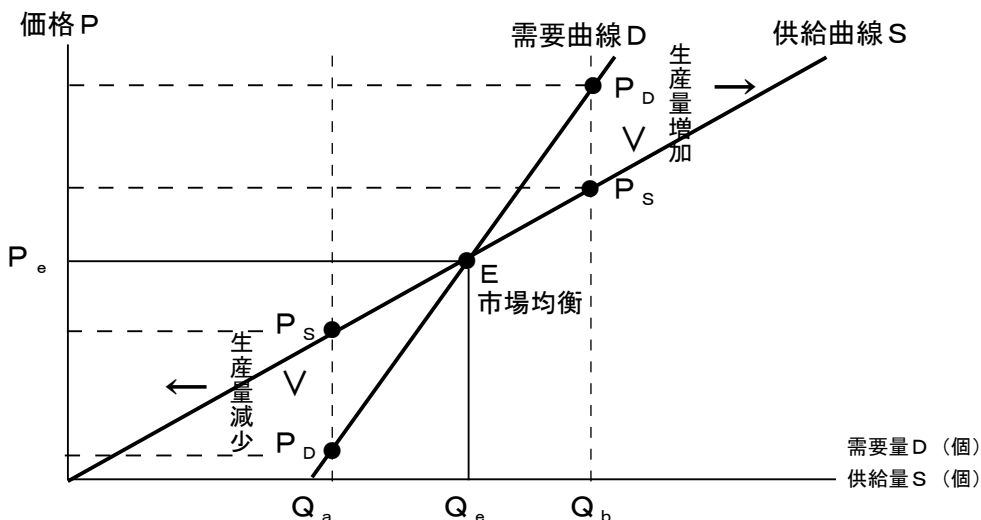
次の case1, case2 は、Part1102 の case1, case2 同様、需要曲線と供給曲線がともに右上がりになる場合です。

case1 → ワルラス調整過程では安定  
マーシャル調整過程では不安定

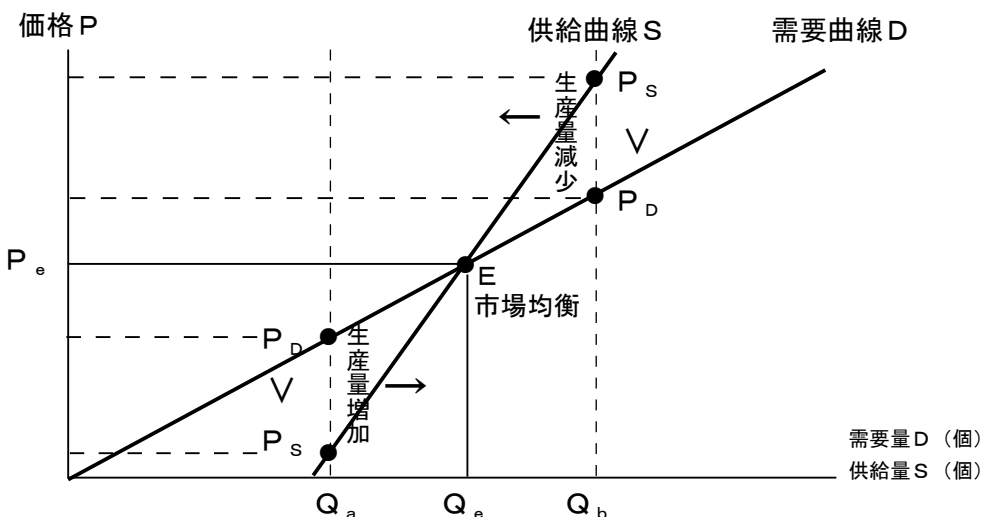
case2) → ワルラス調整過程では不安定  
マーシャル調整過程では安定

となっており、ワルラス調整過程とマーシャル調整過程では、正反対の結果となります。

### case1) マーシャル不安定の例



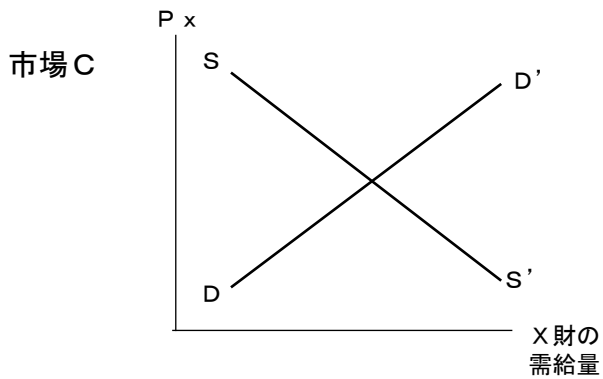
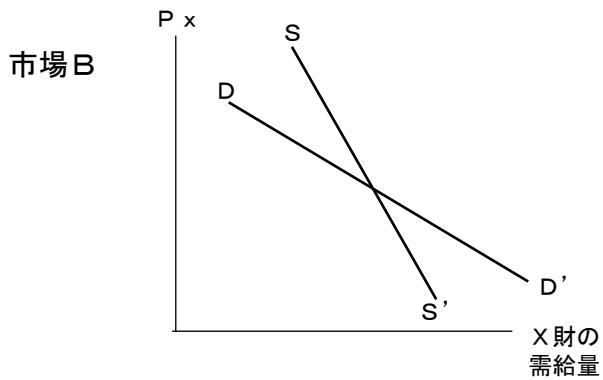
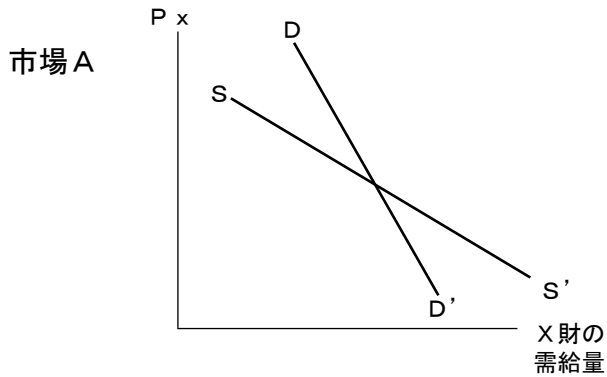
### case2) マーシャル安定の例



なお、需要曲線、供給曲線ともに右下がりの場合については、次ページの例題を通して確認しましょう。

例題 16-1

次の図は、市場 A, B, C のそれぞれにおける X 財の需要曲線と供給曲線である。これらにおける調整過程に関する記述として妥当なものはどれか。

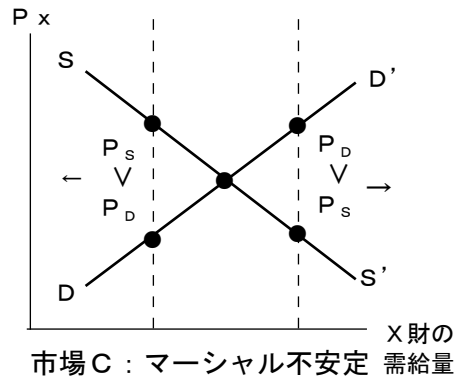
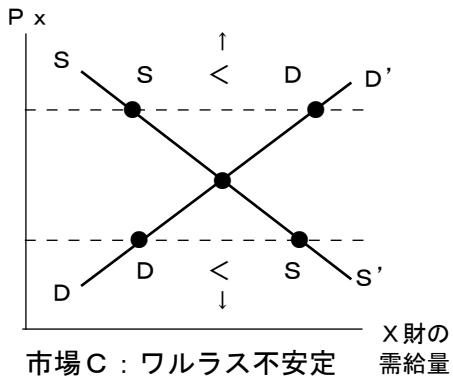
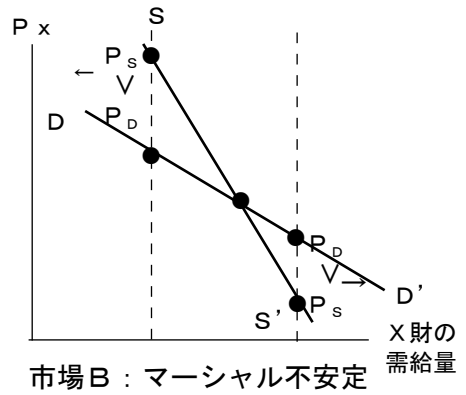
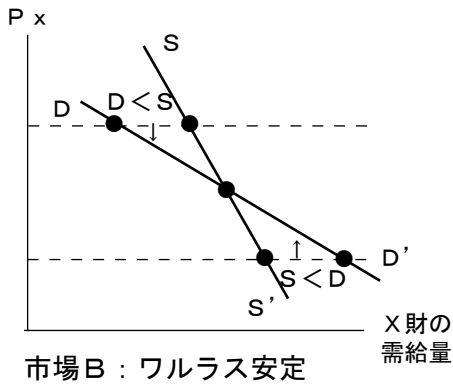
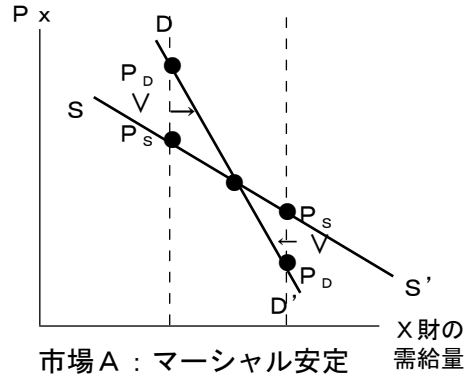
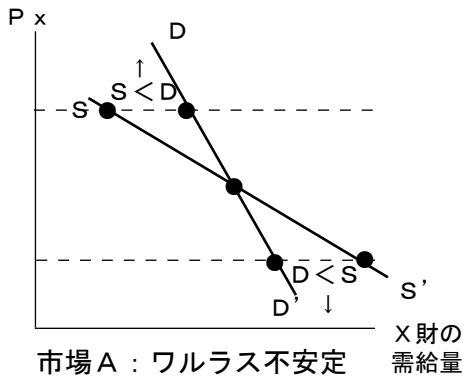


1. 市場 A では、ワルラス安定であり、マーシャル不安定である。
2. 市場 A では、ワルラス不安定であり、マーシャル不安定である。
3. 市場 B では、ワルラス安定であり、マーシャル不安定である。
4. 市場 B では、ワルラス不安定であり、マーシャル安定である。
5. 市場 C では、ワルラス不安定であり、マーシャル安定である。

例題 16-1

それぞれの市場において、  
 ワルラス調整過程では、価格が上昇するのか、下落するのか。  
 マーシャル調整過程では、生産量を増やすのか、減らすのか。

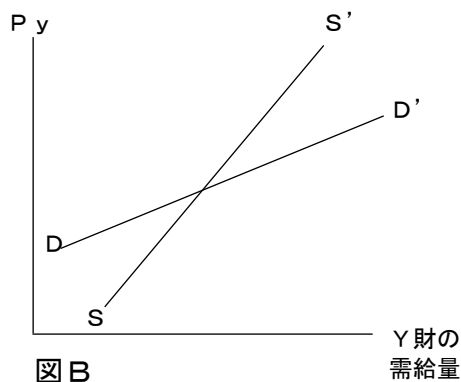
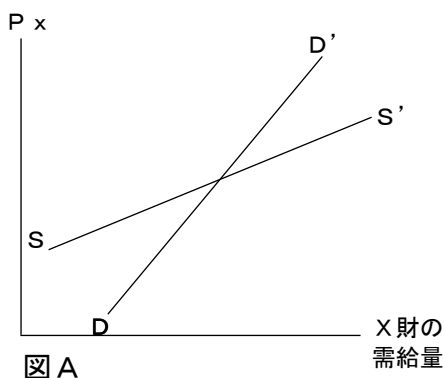
図の中に書き込んで確認しながら、安定なのか、不安定なのかを判断していきましょう。



よって、「正解3」となります。

## 問題 16-1

図Aはある市場におけるX財の、図Bは同じ市場におけるY財の需給関係を示している。この市場における調整過程に関する記述として妥当なものはどれか。



1. 図Aでは、需要の価格弾力性が供給の価格弾力性より大きい。この場合、ワルラス安定である。
2. 図Aでは、需要の価格弾力性が供給の価格弾力性より小さい。この場合、マーシャル不安定である。
3. 図Bでは、需要の価格弾力性が供給の価格弾力性より大きい。この場合、ワルラス安定である。
4. 図Bでは、需要の価格弾力性が供給の価格弾力性より小さい。この場合、マーシャル不安定である。
5. 図Bでは、需要の価格弾力性が供給の価格弾力性より小さい。これは、需要者の消費行動のほうが、供給者の生産活動より、価格変化に対する反応が鈍いことを意味する。

### HINT

「需要の価格弾力性」と「供給の価格弾力性」は、直前のPart14で登場しました。

$$\text{需要の価格弾力性} = -\frac{\text{需要量の変化率}}{\text{価格の変化率}} \quad \text{供給の価格弾力性} = \frac{\text{供給量の変化率}}{\text{価格の変化率}}$$

これらの弾力性と需要曲線、供給曲線の関係は次のようになります。

- 価格弾力性が大→ 価格が少し変化しただけで需要（供給）量が大きく変化。  
図で、上下の移動が小さく、左右の移動が大きい。  
つまり、傾きの絶対値が1未満。
- 価格弾力性が小→ 価格が大きく変化しても需要（供給）量の変化は小さい。  
図で、上下の移動が大きく、左右の移動が小さい。  
つまり、傾きの絶対値が1より大。

問題 16-1

例題 16-1 同様のアプローチで見ていきましょう。  
 暗記に頼った解き方をするのは、極端な言い方をすれば「逃げ」です。  
 もちろん、暗記すべきことがあるのも事実です。でも、大切なのは「思考」  
 の過程を踏んだ結果としての「暗記」なのですから。

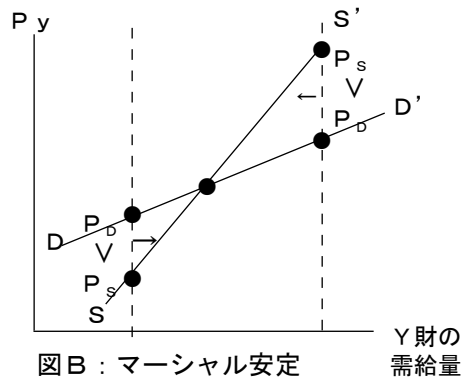
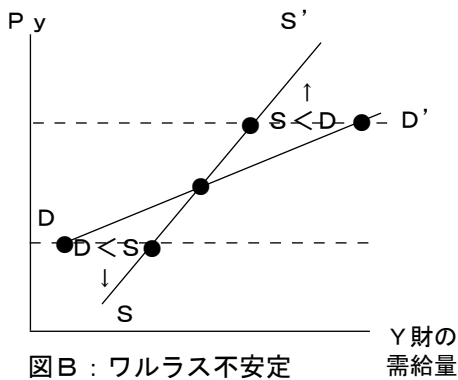
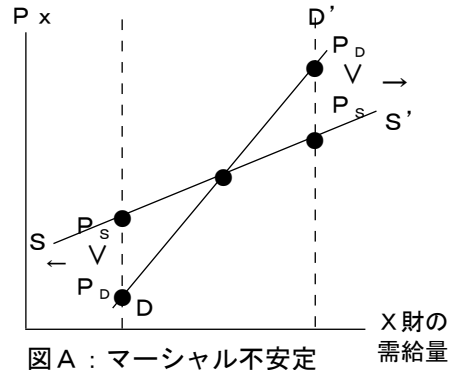
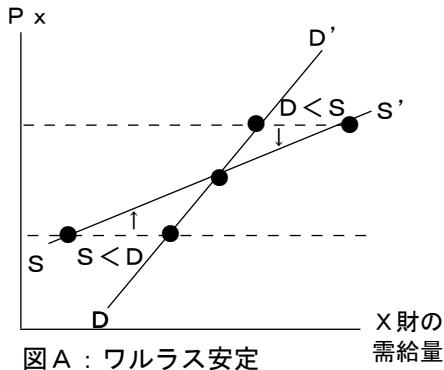


図 A ワルラス調整過程では安定、  
 マーシャル調整過程では不安定となります。  
 需要曲線のほうが供給曲線より傾きの絶対値が大きいので、  
 需要の価格弾力性がほうが供給の価格弾力性より小さいです。

「正解 2」となります。

なお、これは、需要者の消費行動のほうが、供給者の生産活動よりも、  
 価格変化に対する反応が鈍いことを意味します。  
 逆に言えば、供給者のほうが敏感です。

図 B ワルラス調整過程では不安定、  
 マーシャル調整過程では安定となります。  
 需要曲線のほうが供給曲線より傾きの絶対値が小さいので、  
 需要の価格弾力性がほうが供給の価格弾力性より大きいです。

なお、これは、需要者の消費行動のほうが、供給者の生産活動よりも、  
 価格変化に対する反応が敏感であることを意味します。